



きよくり news

CONTENTS

- ・年頭のご挨拶
- ・思春期保健セミナーに参加して
- ・わたしは“ちゃちゃ”



Muraguchi Kiyomura Women's Clinic

新年あけましておめでとうございます



本年もどうぞよろしく願っています

みなさまのような思いで新年を迎えられたでしょうか。昨年暮れに突然訪れた国会解散、衆議院議員選挙、見せかけの安定多数、混迷を極める日本社会の今を見せつけられました。じっとしてはいけな、もう一歩、二歩と歩を進めなければと、そんな思いで新年をスタートしました。

昨年暮れに私が共同代表を務める「日本軍慰安婦問題の早期解決をめざす宮城の会」で「みなさん、ご存知ですか？ 沖縄にも日本軍「慰安婦」がいたことを」の

パネル展を開催しました。日本の沖縄にも130か所あまりの慰安所があったなんて、まったく知りませんでした。昨年沖縄県の知事選で新基地反対を掲げる知事が誕生しました。沖縄は日本で唯一戦場になったところです。戦争の悲惨・残酷さ、身を以て体験し、いまなお日本の捨て石とされ続けた沖縄の人々の心は私たちとは質的に違った精神性を宿しているのだと知りました。朝日新聞の一面中央に載った記事にギクリとしました。

「敗れたのは誰か」・・・反対運動が続き、・・・「過去の問題」（菅官房長官）と言い放つ政権。・・・沖縄に押しつけ、沖縄を忘れる。私たちの政府、そして本土が、敗れたのである。

その後の衆議院選挙では、沖縄全小選挙区で与党が全敗。

きよくり職員旅行で行った沖縄、深く長く広く、縦横無尽に広がる、広大な自然洞窟を陣地壕とした糸数壕（アブチタガマ）ヘルメットをかぶって歩いたこと、胸に刺さるひめゆり学徒の遺稿の数々、そしてシュノーケリングを楽しんだ小浜島の青く澄んだ海・・・美しく素晴らしい光景が蘇ってきました。

昨年は、“成長戦略としての女性の活躍推進”が盛んに言われましたが、残念なことに「女性の活躍推進法案」は廃案に終わりました。もう一つ期待していたことでしたが、「女性の健康の包括的支援に関する法律案」が議員立法として秋の臨時国会での成立をめざして準備されていましたが、やはり時間切れで廃案になりました。現政権の本気度が疑われます。男女平等世界ランキングで日本は104位です。こんな状態に誰がしたのか、いつまで許すのか・・・。男性ばかり、女性はさらにさらに大変生きにくい日本社会と、嘆いてばかりはいられません。

昨年クリニック開院15周年を迎え、しみじみとこれまでを振り返りました。患者さんの心に届く医療を“初心忘るべからず”今年もしっかり心がけていきたいと思えます。

本年もご] 支援・ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

院長 村口喜代

～望むときに妊娠・出産できるよう、心身の健康を思春期から～

看護師 菊地香織

思春期保健セミナーⅠに続き、セミナーⅡを11月1日～3日に横浜にて受講してきました。今回はセミナーⅠの内容の各論編でした。

日本・世界における妊娠の結末について、外国では望んで妊娠をしている女性が66%なのに対し、日本では36%であり、外国に比べて、日本では計画外の妊娠がとて多いことが分かりました。このことから思春期の子どもたちには望まない妊娠をしない適切な避妊教育とそして性感染症予防もきちんと伝え、望むときには妊娠・出産できる心身の健康を保持させる。正常月経や適正体重について、また卵巣も年齢と共に老化し妊娠しにくくなることや、不妊治療（費用・時間）・高齢出産・育児の大変さについても教える。そして高校生位から大まかなライフプラン（結婚適齢期、妊娠適齢期）について考えてもらい、「結婚は何歳でもできるが、妊娠には適齢期がある」ことなどを伝えていくことが大切であるということ学びました。

また思春期に多い心身症や摂食障害、解離性障害では乳幼児期に問題があることが多く、母乳より人工乳の子が多く、生後3ヶ月はなるべく母乳育児によるスキンシップの必要性を学びました。また母親との関係がスムーズに行われなかったことだけが原因なのではなく、4～5歳までの父親との関係や父親の態度も大切だということ、またその時期に感じた父親への恐怖はある一定の時間を過ぎても残り続け、思春期の時期などに大きな影響を与えてしまうということです。このことから、幼少期から健全な父母との関係の中でその子が上手に感情を出せ、どれだけ聞いてもらえるか、また子どもが自分を大切だと思えるようにすることが大切なのだと学びました。

今回も朝活にてみなとみらいを散歩し、普段は人で溢れているはずの街並みを静かに歩きながら自分や家族のことを考える爽やかな時間も過ごすことができました。



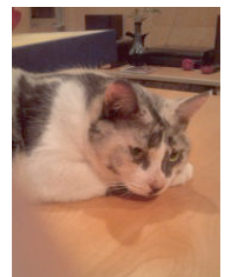
わたしは“ちゃちゃ”

坂病院名誉院長 村口至 先生



わたしは、“ちゃちゃ”、全身チャイロの毛だから名づけられた。迷い猫の母親から女ばかり4匹生まれた3番目。上2匹は、親に似たきれいな三毛猫だ。可愛くて引く手あまたで、残ったわたしと末妹は、村口家に押し付けられた。妹は“のびた”と呼ばれる。わたしからみても“鈍”で名が体を表している。最近、私より小さい4本足をばたつかせる小動物が時折あらわれる。その時わが飼い主たちは、私たちの存在がないかのような振る舞いだ。その小動物は、来るたびに大きくなり、今では2本足で歩き、奇声を上げて何やらよくしゃべる。寒い夜は、きよさん（院長はその小動物に「きよさんと呼びなさい」としつけた）とじっじ（小動物が呼ぶ名）の間にもぐりこみ、朝には、枕に3つの頭が並んでいるのを、じっじが面白い。こうして“ちゃちゃ”の1日が始まるのだ。さあ 今年も元気にゆくぞー にゃん！

（注）「小動物」とは、きよさんの初孫の「礼」である。



【編集後記】

群れをなす羊は家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らすことを意味しているそうです。みなさまにとって幸多き年でありますように。



【臨時休診】

現在、臨時休診の予定はございません。

発行元：村口きよ女性クリニック
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>
 e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

